



名古屋大学 予防早期医療創成センター

第14回ワークショップ

<https://www.pme.coe.nagoya-u.ac.jp/conference20260130/>



日時: 2026年1月30日(金) 10:00~17:00 (意見交換会 17:15~19:00)

会場: ウインクあいち(名古屋市中村区名駅4丁目4-38) 9階 902大会議室



問い合わせ先

名古屋大学 予防早期医療創成センター
 URL <https://www.pme.coe.nagoya-u.ac.jp/>
 〒464-8601 名古屋市千種区不老町
 名古屋大学
 ナショナルイノベーションコンプレックス(NIC) 5F
 TEL・FAX:(052) 789 - 5499
 E-mail:PME事務室
kou-kyoten@pme.coe.nagoya-u.ac.jp

オンライン視聴についての問い合わせ先
urabe.kks@gmail.com

参加方法



会場参加

HP又は下記QRコードから必要事項を御記入の上、登録下さい。

- 1)ご所属/役職 2)氏名
- 3)メールアドレス
- 4)昼食要否(要事前申込)
- 5)意見交換会参加の有無
(会費制3,000円)



www.pme.coe.nagoya-u.ac.jp/entry/

[Web視聴]



Web視聴

HPオンライン視聴申し込みサイト又は下記QRコードから、必要事項を御記入の上、登録下さい。

- 1)ご所属/役職 2)氏名
- 3)メールアドレス



尚、会場へのご質問が頂けませんので予めご了承ください。



- 名古屋駅桜通口から:
ミッドランドスクエア方面 徒歩5分
- ユニモール地下街 5番出口から:
徒歩2分
- 名駅地下街サンロードから:
ミッドランドスクエア、マルケイ観光ビル、名古屋クロスコートタワー経由 徒歩8分
- JR新幹線口から 徒歩9分
- JR(東海道新幹線)をご利用の場合
東京駅から:約97分

主催 名古屋大学予防早期医療創成センター

<https://www.winc-aichi.jp/access/>



プログラム

10:00-

開会 10:00-10:10

丸山 彰一 予防早期医療創成センター長 名大附属病院長

門松 健治 東海国立大学機構 理事・名古屋大学 副総長（統括副総長）

招待講演

10:10-11:10

ヘルスケア産業政策の動向について～PHRの利活用にかかる最近の取組等
経済産業省 ヘルスケア産業課 課長 福田 光紀(ふくだみつのり)氏

11:15-12:15

日本における5型糖尿病概念の重要性
～メタボリックドミノの最上流は内臓脂肪蓄積ではない～
北里大学北里研究所病院 糖尿病センター センター長 山田 悟(やまだ さとる)氏

昼休憩 12:15-13:30

13:30-



昼食

要事前予約
昼休憩時
906会議室で配布



意見交換会

参加費用
¥3,000円
要事前予約
902大会議室

パネルディスカッション

パネル1 13:30-14:30

モデレーター 医学系研究科 総合管理医学 講師 今泉 貴広
食事・運動・睡眠とデーターが描く予防医学の未来
北里大学北里研究所病院 糖尿病センター センター長 山田 悟氏
名古屋大学 総合保健体育科学センター 保健科学部 教授 小池 晃彦 氏
株式会社 NTTデータ 第二インダストリ事業本部長 三竹 瑞穂 氏
株式会社 ナインアワーズ 取締役 渡邊 保之 氏

パネル2 14:40-15:40

モデレーター 小児外科/予防早期医療創成センター 特任教授 檜 顕成
医療機器開発とレギュラトリー・サイエンス
株式会社HICKY 取締役・共同創業者 稲垣 大輔 氏
名古屋大学 医学部附属病院 病院助教 天野 日出 氏
(独)医薬品医療機器総合機構 プログラム医療機器審査部 審査役 木村 俊成氏

パネル3 15:50-16:50

モデレーター 予防早期医療創成センター 准教授 大山 慎太郎
対面を超える価値の創造へ：連携とテクノロジーが拓く次世代遠隔医療
名古屋大学医学部附属病院 救急科 診療科長 山本 尚範 氏
(医)尚仁会名古屋ステーションクリニック/(株)M-aid 院長/CEO 木下 水信氏
名桜大学 人間健康学部 健康情報学科 教授 木暮 祐一 氏

閉会 16:50-17:00

丸山 彰一 予防早期医療創成センター長 名大附属病院長 医学系研究科 教授

17:15-
19:00

意見交換会

招待講演1

10:10~11:10

ヘルスケア産業政策の動向について～PHRの利活用にかかる最近の取組等

経済産業省 ヘルスケア産業課
課長 福田 光紀（ふくだみつのり）氏

経済産業省ヘルスケア産業課では、予防・健康づくりの観点から、「自然と健康になる社会」を目指し、個人の健康・医療情報（PHR:Personal Health Record）を活用したサービスの創出・普及に取り組んでいる。PHRは、近年、スマートフォンやウェアラブルデバイスの普及に伴い、食事、運動、睡眠、血圧等のログデータがスマートフォン上で簡単に取得・管理できるようになってきたことに加え、政府全体でも医療DXにかかる取組みを進め、マイナポータルを通じて、予防接種歴、乳幼児健診、特定健診結果、レセプト情報等を個人のスマートフォンで参照できるようにするとともに、本人同意に基づき、マイナポータルAPIを通じて、事業者が提供するサービスでも利用できる環境が整備されてきた。

経済産業としては、これらのPHRを事業者が活用することで、新たな健康づくりや産業創出につながるものと期待しており、①マイナポータルから取得した情報を民間PHR事業者が活用できるためのルール作り、②民間団体と連携したログデータの標準化等の環境整備、③医療・介護・日常分野におけるPHR利活用促進のためのユースケース創出やサービス開発に取り組んでおり、これらにかかる最近の取り組みについて紹介する。

具体的には、PHRの活用が患者のQOL向上や医療従事者の業務効率化に資することが期待されていることから、医療機関において導入や利用が容易なPHRサービスを創出するための実証事業や、AMEDを通じ予防・健康づくりにかかるアプリ・サービス等の社会実装のモデルケース創出のための研究開発事業を実施。また、2025年大阪・関西万博の機会を活用し、PHRサービスの普及に取り組むべく、本人同意に基づきPHRを仲介する情報連携基盤「PHR CYCLE」を整備し、「食事・運動・睡眠」等の分野において、約9万人の来場者に新たなサービスの体験提供等を行うとともに、令和7年度は、「PHR CYCLE」を活用した介護予防領域や多職種連携におけるPHRの利活用についての実証検証を進めている。



招待講演2

11:15~12:15

日本における5型糖尿病概念の重要性

～メタボリックドミノの最上流は内臓脂肪蓄積ではない～

北里大学北里研究所病院 糖尿病センター
センター長 山田 悟（やまだ さとる）氏

2005年のメタボリックシンドローム診断基準確定と2008年の特定健診開始に伴い、わが国では様々な生活習慣病の共通基盤に内臓脂肪蓄積・肥満があるとされ、エネルギー制限による体重減量こそが生活習慣病予防の最善策であると考えられてきた¹。しかし、カロリー制限による特定保健指導の効果は乏しく²、また、日本人で最も糖尿病を発症しやすいBMIが18.5未満であったことが報告され³、エネルギーの出納バランスを第一義的に重要視する概念⁴に疑問が投げかけられるようになった⁵。

2018年にハーバード大のグループが提唱したのがCarbohydrate-Insulin modelであり、糖質過剰摂取と食後高血糖が飢餓感を通じて正のエネルギーバランスを生むというものである⁶。2023年にコロラド大学のグループが提唱したのがFructose Survival modelであり、果糖の過剰摂取が、飢餓感を通じてエネルギー過剰摂取を生み、かつ、冬眠のごとくエネルギー消費減少を生み、正のエネルギーバランスにつながるというものである⁷。

そんな中、2025年1月に国際糖尿病連合は5型糖尿病の概念を提唱した。これは、やせたままで生じるインスリン非依存型糖尿病であり、若年時のエネルギー不足によって生じるとされる。糖質の過剰摂取に対しインスリンで応答できない者が肥満を介さず高血糖を呈するのは当然であるが、そこに脂質やタンパク質摂取の不足によるインクレチン応答の欠乏があれば、高血糖は加速度的に悪くなる。我が国の糖尿病の多くは非肥満である。これを5型糖尿病であると理解すれば、内臓脂肪蓄積が基盤でなく、エネルギー制限食が病態を悪化させえることが理解できる。

本講演では、糖尿病・肥満・やせについてのここ数年の概念の変化を概説し、エネルギー制限食がメタボリックドミノのドミノ倒しを防げないことをお話しする。合わせて、動脈硬化症予防のための脂質制限食や慢性腎臓病予防のためのタンパク質制限食の無効性についてお話しする。

1) 日内会誌 2005; 94: 188-213

2) JAMA Intern Med 2020; 180: 1630-1637

3) Diabetol Int 2012; 3: 92-98

4) Energy-Balance model

5) Nat Metab 2024; 6: 1856-1865

6) JAMA Intern Med 2018; 178: 1098-1103

7) Obesity 2024; 32: 12-22

パネルディスカッション1

13:30~14:30

モデレーター

今泉 貴広 (いまいづみ たかひろ)

医学系研究科 総合管理医学 講師

食事・運動・睡眠とデーターが描く予防医学の未来

北里大学北里研究所病院 糖尿病センター センター長 山田 悟 (やまだ さとる) 氏

名古屋大学 総合保健体育科学センター 保健科学部 教授 小池 晃彦 (こいけ てるひこ) 氏

株式会社 NTTデータ 第二インダストリ事業本部長 三竹 瑞穂 (みたけみづほ) 氏

株式会社 ナインアーズ 取締役 渡邊 保之 (わたなべ やすゆき) 氏

健康を守る鍵は、食事・運動・睡眠という生活習慣の基本にある。本パネルでは、この三要素をどのように日常生活に取り入れ、さらにデータを活用して予防医学を進化させるかを総合的に議論する。

食事の分野では、糖尿病予防に有効な『口カボ食』をキーワードに、科学的根拠と実践のポイントを詳しく紹介する。食事は単なる栄養摂取ではなく、病気を防ぐ戦略であり、生活習慣病のリスクを減らすための重要な要素であることを強調する。

運動については、『歯を磨くように運動』というキャッチを合言葉に、運動を生活に自然に組み込むための方法を提案する。運動は特別なものではなく、毎日の習慣として定着させることが重要であり、そのための行動科学的アプローチや実践例にも触れる。

睡眠の分野では、20万人超の睡眠データを活用した取り組みを紹介し、質の高い睡眠が心身の健康に与える影響を解説する。さらに、名古屋大学病院と提携したホテル事業を通じて、未病プラットフォーム構築を目指す挑戦を取り上げ、産学連携の可能性を示す。

最後に、予防医学におけるデータ連携の重要性を解説する。生活者データをフリクションレスに取得し、兆しを検知して早期介入する仕組み、医療と生活習慣改善を両輪で回すためのデータ統合、そしてFood&Wellness、千年カルテ、塩野義DTxなどの事例を紹介し、データ活用がもたらす未来像を描く。食事・運動・睡眠とデータの力で、予防医学はどこまで進化できるのか。本パネルで、その全体像を明らかにする。

パネルディスカッション2

14:40~15:40

モデレーター

檜 顯成 (ひのき あきなり)

小児外科/予防早期医療創成センター 特任教授

医療機器開発とレギュラトリーサイエンス

株式会社 HICKY 取締役・共同創業者 稲垣 大輔 (いながき だいすけ) 氏

名古屋大学 医学部附属病院 病院助教 天野 日出 (あまの ひづる) 氏

(独)医薬品医療機器総合機構

プログラム医療機器審査部 審査役 木村 俊成 (きむら としなり) 氏

日本の医療機器開発は、「世界に先駆けた革新的な医薬品・医療機器・再生医療等製品の実用化」を目標として進められている。国内医療機器は高い品質と信頼性を特徴とし、内視鏡や手術支援ロボット関連部品は国際的にも高い評価を受けている。

一方で、革新的医療機器やスタートアップ発デバイスの事業化は欧米と比較して少なく、研究成果の社会実装までに時間を要する傾向がある。医療機器開発が困難である背景には、医学・工学・薬事・品質保証といった多領域の要件を同時に満たし、安全性・有効性・品質を科学的根拠に基づいて評価・管理する必要がある点にある。

本セッションでは、クラスIVの革新的治療機器開発に取り組む、稻垣大輔氏(株式会社HICKY)、「中枢性無呼吸症候群に対するステントを用いた神経刺激装置の開発」)、小児希少がんの早期発見と悪性度層別化に取り組む、天野日出氏(名古屋大学大学院医学系研究科)、「神経芽腫悪性度層別化マーカーの開発」)よりその開発概要を紹介して頂く。

さらに、独立行政法人医薬品医療機器総合機構プログラム医療機器審査部審査役の木村俊成氏より、医療機器開発を成功させる基盤としての「医療機器開発とレギュラトリーサイエンス」について講演いただく。



パネルディスカッション3

15:50~16:50

モデレーター

大山 慎太郎 (おおやま しんたろう)
予防早期医療創成センター 准教授

対面を超える価値の創造へ:連携とテクノロジーが拓く次世代遠隔医療

名古屋大学医学部附属病院 救急科 診療科長 山本 尚範 (やまもと たかのり) 氏
(医)尚仁会名古屋ステーションクリニック/(株)M-aid 院長/CEO 木下 水信 (きのした みずのぶ) 氏
名桜大学 人間健康学部 健康情報学科 教授 木暮 祐一 (こぐれ ゆういち) 氏

memo

ビデオ通話によるいわゆる「オンライン診療」は、場所や時間の制約を緩和し、医療アクセスを向上させる一方で、その多くは問診に限定され、対面診療の下位互換という課題を抱えている。本パネルディスカッションでは、単なるビデオ通話で完結しない新たな遠隔医療のあり方を議論する。医療機器や多様な医療者との連携、データやモビリティの活用を通じて、対面診療では実現できない新しい価値を創造する「次世代遠隔医療」の可能性を多角的に探る。

救急災害医療の専門家である名古屋大学の山本氏からは、遠隔ICUの実践と災害対応の経験を踏まえ、バイタルデータや病床・人員といったリソース情報を統合し、遠隔から地域全体の救急・集中治療を支える「医療指揮プラットフォーム」としての次世代遠隔医療の可能性を臨床現場の視点から紹介いただく。

次に、ICTを活用した予防医療の先駆者である名古屋ステーションクリニックの木下氏からは、MaaS (Mobility as a Service) 車両を用い医療そのものが地域へ移動することで、従来の医療提供体制のあり方を問い合わせ直す新しい移動型診療拠点の実証・開発についてお話しいただく。

最後に、名桜大学の木暮氏からは、医師不足やアクセス制約が深刻な沖縄の離島医療の現状と現場ヒアリングから得られた課題を基に、地理的制約を克服するためのオンライン診療活用の現実的な可能性と展望をお話しいただく。

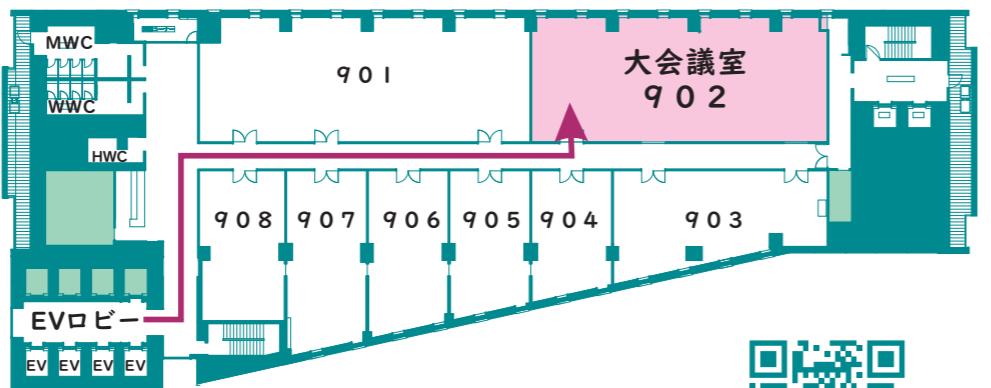
本パネルでは、これらの先進的な取り組みを通じて、テクノロジーとヒューマンタッチをいかに融合させ、場所に依存しない質の高い医療を構築できるか、その実現に向けた課題と未来像を参加者の皆様と共に深く議論したい。



会場案内

ウインクあいち
名古屋市中村区
名駅4丁目4-38
9階 902大会議室

ウインクあいち
WINC AICHI



<https://www.winc-aichi.jp/access/>

(JR・地下鉄・名鉄・近鉄)名古屋駅より

- JR名古屋駅桜通口から:ミッドランドスクエア方面 徒歩5分
- ユニモール地下街 5番出口から:徒歩2分
- 名駅地下街サンロードから:ミッドランドスクエア、マルケイ観光ビル、名古屋クロスコートタワーを経由 徒歩8分
- Jr新幹線口から 徒歩9分

JR(東海道新幹線)をご利用の場合

- 東京駅から:約97分
- 新大阪駅から:約51分

